

大雪山国立公園，音更川上流域における巨木目録 I

川辺 百樹¹⁾・鏡 垣²⁾A list of giant trees at the upper reaches of the Otofuke River,
Taisetsuzan (Daisetsuzan) National Park IMomoki KAWABE¹⁾ and Hiroshi KAGAMI²⁾

はじめに

音更川上流域では1892年から囚人労働によって伐採がはじまった。1934年に音更川上流域一帯は大雪山国立公園に指定されたが、1939年に十勝三股まで鉄道が開通し伐採は本格化した。1960年代以降の木材需要の高まりは伐採量を飛躍的に増大させた。このため、この地域では原生状態で1 ha 当り300~400m³あった材積量が、現在その半分以下にまで減少したと推定されている(久保田康裕氏 私信)。このようにこの地域は国立公園であるが、森林は大きな人為的な干渉を受けてきた。

巨木はその地域のかつての森林の様子を物語るレリックであり、地域の自然のシンボルでもある。環境省でも全国の巨木のデータベース化に取り組んでいる。これまで森林地帯において巨木を記録するにあたっての問題は、巨木の位置を特定することの困難性であった。しかし近年、GPS (Global Positioning System) の精度の向上により、地点の把握が容易になった。そこで本稿では、第1報として音更川五の沢付近で確認された巨木(胸高直径100cm以上)について報告する。なお、音更川上流域では十勝三股の巨木について報告されている(上土幌町 1996, 斎藤・川辺 1998)。

調査地と調査方法

調査は糠平湖(1955年に発電のために造られた

貯水池)の西岸、音更川五の沢流域の約2 km²の範囲で行なった(図1)。ここは烏帽子山単性火山群から続く緩斜面で、音更川上流域では十勝三股盆地に次ぐ大きな平坦地形となっている。標高800mくらいまでは針広混交林帯であるが、斜面下部の沢沿いには湿性地向が多いためアカエゾマツの優占する林分がみられる。ここでは1892年ころから伐採が行なわれ、音更川上流域ではもっとも早くから人為的攪乱を受けたところである。国道273号付近にシラカンバ *Betula platyphylla* var. *japonica* の優占する林分があるが、これは伐採跡地に成立したもので、このあたりの伐採の強さを物語っている。

調査は2002年4月~2005年2月の積雪期に行なわれた。スキーで調査地を任意に歩行し、巨木の発見に努めた。胸高直径の計測は、雪にポールをさし積雪深を調べた後、直径巻尺を用いて行なった。

調査者 磯野照弘, 伊東勲, 川邊真樹, 木谷文彦, 久保進, 佐藤信司, 島田雄吉(故人), 平田正明, 前野健, 山下征夫, 山田和幸

結果と考察

発見された巨木を表1に示す。ミズナラ *Quercus mongolica* var. *grosseserrata* が26本と最も多く、約7割を占めた。次いでシナノキ *Tilia japonica* 6本・ハルニレ *Ulmus davidiana* var. *japonica* 4本・

1) ひがし大雪博物館 080-1403 北海道河東郡上土幌町字糠平 Higashi Taisetsu Museum of Natural History, Nukabira, Kamishihoro-cho, Hokkaido, 080-1403, Japan

2) 音更高校 080-0574 音更町駒場 Otofuke Hight School, Komaba, Otofuke-cho, Hokkaido 080-0574

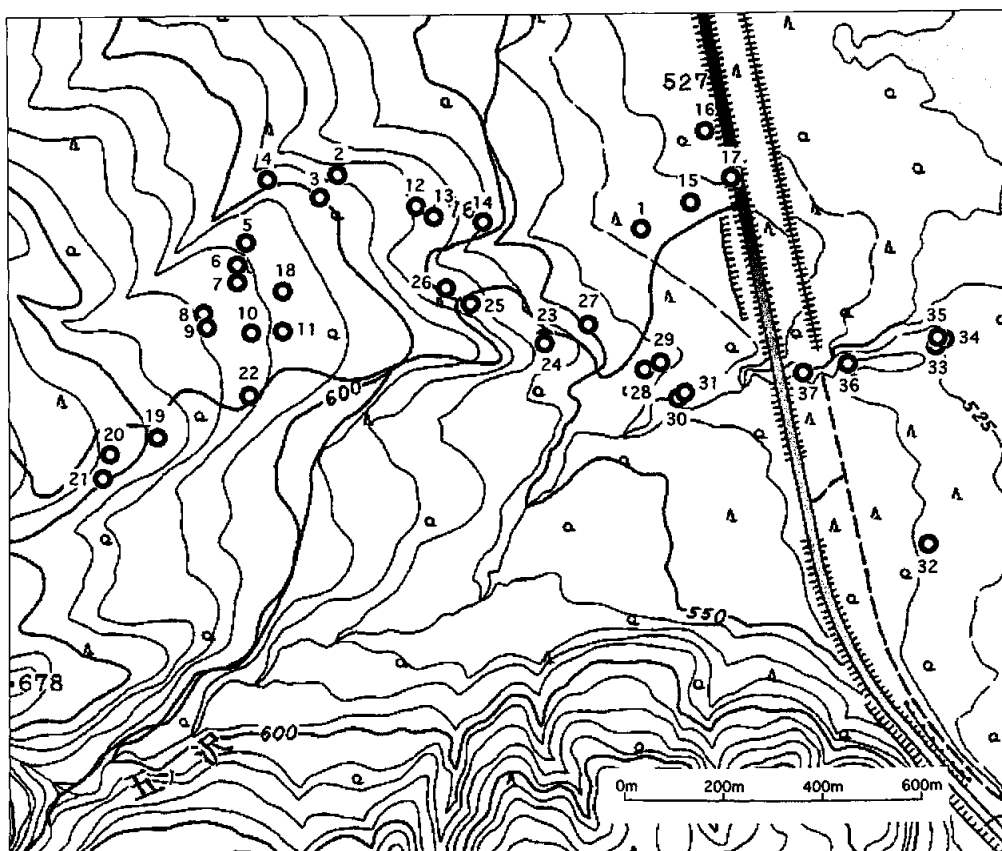


図1. 北海道中央部、音更川上流域五の沢付近における巨木の分布。数字は表1の登録番号を示す。

Figure 1. Distribution of giant trees at the upper reaches of the Otofuke River, Taisetsuzan (Daisetsuzan) National Park

ドロノキ *Populus maximowiczii* 1本であった。胸高直径は110cm以下のものが最も多く、4割を占めた。最大胸高直径は158cm (N32のミズナラ) であった。

巨木が出現した最高標高は650mであった。標高650mから上は斜度がきつくなり十分な調査を行えなかったが、針葉樹が多くなるため広葉樹の巨木があったとしてもごく少数であると推測される。

巨木の樹齢を正確に知ることは、多くの場合困難である。ただしドロノキは例外で、洪水跡地などに先駆樹種（パイオニアツリー）として入る性質を利用し、大規模洪水の発生時期から樹齢を推定できる場合もある。斎藤・川辺（1998）は、今回の調査地の北12.5kmに位置する音更川の支流、シンノスケクシュベツ川（中の川）の河畔林を調

べ、オオバヤナギ *Toisusu urbaniana* 林分が50~60年前（1996年時点で）の洪水段丘面に生育したと推定した。十勝地方平野部での50年前から100年前までの洪水記録によると1948, 1947, 1936, 1922, 1919, 1913年に洪水が発生している（北海道開発局帯広開発建設部 1993）。十勝地方平野部での洪水記録と調査地での出水状況との関連を把握できないが、今回五の沢の氾濫原で発見された胸高直径133cmのドロノキ（N37）は、1936年の洪水氾濫原に定着した可能性が高いと考える。とすると、このドロノキの樹齢は最大68年と推定される。

今回2km²で37本の巨木が確認されたが、筆者らの知る限りでは音更川上流域でこれほど広葉樹の巨木が集中的に出現するところはない。その最大の要因は、これらの巨木が用材に不適であるため伐採を免れたことにあると考えられるが、

表 1. 音更川上流域五の沢付近における巨木目録

Table 1. A list of giant trees at the upper reaches of the Otofuke River, Taisetsuzan (Daisetsuzan) National Park

登録番号	種名	胸高直径	緯度	経度	標高	調査日
N 1	ミズナラ	112.5	43° 24' 00.9"	143° 10' 55.8"	535	2002/4/3
N 2	ミズナラ	124.5	43° 24' 04.5"	143° 10' 28.8"	580	2002/4/3
N 3	ミズナラ	116.0	43° 24' 03.0"	143° 10' 27.0"	600	2002/4/3
N 4	ミズナラ	108.0	43° 24' 04.1"	143° 10' 22.4"	590	2002/4/3
N 5	ミズナラ	104.5	43° 23' 59.9"	143° 10' 20.5"	610	2002/4/3
N 6	ミズナラ	109.0	43° 23' 58.4"	143° 10' 19.7"	620	2002/4/3
N 7	シナノキ	104.5	43° 23' 57.3"	143° 10' 19.7"	620	2002/4/3
N 8	ミズナラ	113.5	43° 23' 55.2"	143° 10' 16.8"	630	2002/4/3
N 9	シナノキ	103.0	43° 23' 54.3"	143° 10' 17.0"	630	2002/4/3
N 10	ミズナラ	121.0	43° 23' 54.0"	143° 10' 20.9"	620	2002/4/3
N 11	ミズナラ	102.0	43° 23' 54.2"	143° 10' 23.8"	620	2002/4/3
N 12	ミズナラ	103.0	43° 24' 02.3"	143° 10' 35.6"	580	2002/4/3
N 13	ミズナラ	126.0	43° 24' 01.6"	143° 10' 37.2"	570	2002/4/3
N 14	ミズナラ	121.5	43° 24' 01.3"	143° 10' 41.7"	560	2002/4/3
N 15	ハルニレ	107.0	43° 24' 02.6"	143° 11' 00.0"	530	2002/4/3
N 16	ミズナラ	122.5	43° 24' 07.3"	143° 11' 01.4"	530	2002/4/3
N 17	シナノキ	101.0	43° 24' 04.2"	143° 11' 03.8"	530	2002/4/3
N 18	シナノキ	102.0	43° 23' 56.7"	143° 10' 23.8"	610	2002/4/7
N 19	ミズナラ	107.0	43° 23' 47.1"	143° 10' 12.7"	640	2002/4/7
N 20	シナノキ	100.0	43° 23' 46.0"	143° 10' 08.4"	650	2002/4/7
N 21	ミズナラ	135.0	43° 23' 44.4"	143° 10' 07.8"	650	2002/4/7
N 22	ミズナラ	119.0	43° 23' 49.9"	143° 10' 20.8"	620	2002/4/7
N 23	シナノキ	103.5	43° 23' 53.7"	143° 10' 47.1"	560	2002/4/10
N 24	ミズナラ	123.0	43° 23' 53.4"	143° 10' 47.1"	560	2002/4/10
N 25	ミズナラ	112.5	43° 23' 55.8"	143° 10' 40.5"	570	2002/4/10
N 26	ミズナラ	126.0	43° 23' 57.0"	143° 10' 38.4"	570	2002/4/10
N 27	ミズナラ	109.0	43° 23' 54.6"	143° 10' 51.0"	550	2002/4/12
N 28	ミズナラ	124.0	43° 23' 51.6"	143° 10' 56.1"	540	2002/4/15
N 29	ミズナラ	151.5	43° 23' 52.0"	143° 10' 57.5"	540	2002/4/15
N 30	ハルニレ	107.0	43° 23' 49.8"	143° 10' 59.1"	540	2002/4/15
N 31	ハルニレ	136.0	43° 23' 50.1"	143° 10' 59.7"	540	2002/4/15
N 32	ミズナラ	158.0	43° 23' 40.2"	143° 11' 21.4"	530	2005/2/7
N 33	ハルニレ	123.0	43° 23' 53.1"	143° 11' 21.9"	525	2005/2/7
N 34	ミズナラ	121.0	43° 23' 53.4"	143° 11' 22.8"	525	2005/2/7
N 35	ミズナラ	115.0	43° 23' 53.7"	143° 11' 22.2"	525	2005/2/7
N 36	ミズナラ	141.0	43° 23' 51.9"	143° 11' 14.1"	530	2005/2/7
N 37	ドロノキ	131.0	43° 23' 51.3"	143° 11' 10.2"	530	2005/2/7

広葉樹にとっての生育立地の好適性という要因も無視できない。この点についてはさらに調査を進め、今後検討したい。

謝 辞

本稿の校閲をいただいたひがし大雪博物館友の会前会長斎藤新一郎氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 北海道開発局帯広開発建設部，1993. 十勝川 写真で綴る変遷史，pp.36-37，河川環境管理財団。
 上士幌町，1996. 十勝三股集団施設地区自然環境基礎調査報告，pp.316-319，上士幌町。
 斎藤新一郎・川辺百樹，1998. 音更川支流シンノスケクシュンベツ川（中の川，十勝三股地区）におけるオオバヤナギ河畔林の現状について。ひがし大雪博物館研究報告，20：1-12。

Summary

We investigated giant trees at the upper reaches of the Otofuke River, Taisetsuzan (Daisetsuzan) National Park from 2002 to 2004. As the result, thirty-seven giant trees were found in the 2 square-kilometer range. Twenty-six trees were *Quercus mongolica* var. *grosseserrata*, 6 were *Tilia japonica*, 4 were *Ulmus davidiana*, and 1 was *Populus maximowiczii*. The maximum diameter at breast height was 158 cm (*Quercus mongolica* var. *grosseserrata*). The age of *Populus maximowiczii* which was the pioneer tree was estimated to be about 68 years old.

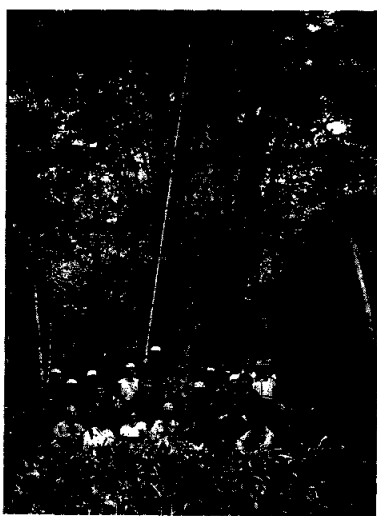


図2. N29ミズナラ (DBH151.5cm).
Figure 2. N29 *Quercus mongolica* var. *grosseserrata*.



図3. N32ミズナラ (DBH158cm).
Figure 3. N32 *Quercus mongolica* var. *grosseserrata*.



図4. N36ミズナラ (DBH141cm).
Figure 4. N36 *Quercus mongolica* var. *grosseserrata*.